

教育哲学会

第 55 回大会 プログラム

2012 年 9 月 16 日（日）・17 日（月）

早稲田大学国際会議場

大会日程

第1日 9月16日(日)

- 9:00 受付
(1階 ロビー)
- 9:30~12:00 一般研究発表
(3階 第一~第三会議室)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
全国編集委員会
(4階 共同研究室6)
研究討議打ち合わせ
(1階 来賓室)
- 13:00~16:30 研究討議
(1・2階 井深大記念ホール)
- 16:45~17:45 総会
(1・2階 井深大記念ホール)
- 18:00~20:00 懇親会
(大隈ガーデンハウス)

第2日 9月17日(月)

- 9:00 受付
(1階 ロビー)
- 9:30~12:00 一般研究発表
(3階 第一~第三会議室)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
課題研究打ち合わせ
(1階 来賓室)
- 13:00~15:45 課題研究
(1・2階 井深大記念ホール)
- 16:00~18:00 ラウンドテーブル
(3階 第一~第二会議室)

大会前日 9月15日(土)

16:00~18:30 全国理事会 (本部キャンパス9号館3階 301室)

参加要項

- 受付 国際会議場1階 ロビー
- 大会参加費 3,000円 (学生2,000円)
- 懇親会費 5,000円 (学生3,000円)
- 一般研究発表 発表20分 / 質疑応答5分

- ※ 万一発表を取り止める場合、発表者は速やかに大会準備委員会にご連絡ください。なお、欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。
- ※ 昼食は、各自で近隣のコンビニでご用意いただくか、大学周辺の飲食店をご利用ください。

第1日

9月16日(日)

第1部会

3階 第三会議室

司会：上地 完治（琉球大学）・早川 操（名古屋大学）

- 9:30 「責任ある存在」を可能にするもの
宮川 幸奈（九州大学大学院・院生）
- 9:55 J.バトラーにおける「レスポンスビリティ」概念の検討
山口 恭平（東京大学大学院・院生）
- 10:20 クリティカル・ペダゴジーにおける対話
—ヘンリー・ジルールの論を参照に—
市川 秀之（名城大学・非常勤講師）
- 10:45 「反省的実践」のアートとしての特質に関する一考察
杉原 央樹（早稲田大学大学院・院生）
- 11:10 Joseph Tussman の大学教育論
—学生の従順さ（docility）に注目して—
間篠 剛留（慶應義塾大学大学院・院生）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第2部会

3階 第二会議室

司会：小松 佳代子（東京藝術大学）・藤川 信夫（大阪大学）

- 9:30 芸術教育において美的経験はどのように捉えられうるか
—B.リーマーと K.モレンハウアーの議論から—
中居 舞子（広島大学大学院・院生）
- 9:55 生の全体性とキャリア形成
走井 洋一（東京家政大学）
- 10:20 ボルノーにおける言語と人格形成との関わり
菅沼 静香（早稲田大学大学院・院生）
- 10:45 コトバの「理解」論における四つのドグマ
—宇佐美寛の「ことばによる伝達」論を批判の対象として—
小笠原 喜康（日本大学）
- 11:10 学校現場の《日常》における臨床教育学的省察
—「生きられた教育言説世界」のゆらぎの中で—
小林 宣洋（立川市立立川第五中学校）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第1日

9月16日(日)

第3部会

3階 第一会議室-B

司会：荻路 貫司（福島大学）・矢野 智司（京都大学）

- 9:30 ルソーにおける事物に関する一考察
佐藤 安功（仙台高等専門学校）
- 9:55 関心の中動相
寺崎 恵子（聖学院大学）
- 10:20 マルセル・モース『贈与論』の教育思想としての意義
—「贈与交換」概念をてがかりに—
安井 健（神戸大学大学院・院生）
- 10:45 言説と主体
—ミシェル・フーコーの前期主体論—
木下 慎（東京大学大学院・院生）
- 11:10 ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学的展開
森田 裕之（名古屋芸術大学）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第4部会

3階 第一会議室-A

司会：高柳 充利（信州大学）・田中 每実（武庫川女子大学）

- 9:30 「個性」をもつとはどのようなことか
—三木清の「人格」概念を手がかりに—
神戸 和佳子（東京大学大学院・院生）
- 9:55 人間発達における身体性の捉え方に関する一視点
—和辻・三木思想からの論及—
山口 裕貴（桜美林大学）
- 10:20 矛盾的自己同一と他者
山田 良憲（立命館大学大学院・院生）
- 10:45 グローバル・シティズンシップのための教育
—J. S. ミルにおける国際道徳と国民性—
高宮 正貴（聖母大学・非常勤講師）
- 11:10 超越的なものとのかかわりにおける自己認識
—「市民宗教」のもつ教育的意義再考—
山本 孝司（九州看護福祉大学）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第1日

9月16日(日)

12:00~13:00 昼食・休憩
全国編集委員会 4階 共同研究室6
研究討議打ち合わせ 1階 来賓室

13:00~16:30 研究討議(開催校企画) 1・2階 井深大記念ホール

規範と教育

提案者: 森田 洋司(大阪市立大学・名誉)
谷田 増幸(兵庫教育大学)
石堂 常世(早稲田大学)
指定討論者: 林 泰成(上越教育大学)
司 会: 高橋 勝(帝京大学)
藤井 千春(早稲田大学)

16:45~17:45 総会 1・2階 井深大記念ホール

18:00~20:00 懇親会 大隈ガーデンハウス

第2日

9月17日(月)

第1部会

3階 第三会議室

司会：佐藤 隆之（早稲田大学）・龍崎 忠（岐阜聖徳学園大学）

- 9:30 | アマルティア・センの基本的ケイパビリティの平等に関する一考察
—業績原理と才能に恵まれていない者を切り捨てない原理を両立させるのか?—
金子 聡（無所属）
- 9:55 | ロナルド・ドゥウオーキンの平等論についての一考察
鵜海 未祐子（早稲田大学大学院・院生）
- 10:20 | ノディングズによるケア倫理の捉え直し
—*The Maternal Factor*を対象として—
伊藤 博美（名古屋経済大学）
- 10:45 | J.ウェストマンの親思想に関する一考察
—とりわけ parenthood 概念の分析から—
帖佐 尚人（早稲田大学）
- 11:10 | 非政治的思考の政治的意味
—H. アレントの後期思考論に着目して—
村松 灯（東京大学大学院・院生）
- 11:35 | 全体討議（～12:00）

第2部会

3階 第二会議室

司会：池田 全之（お茶の水女子大学）・藤井 佳世（鎌倉女子大学）

- 9:30 | 「自分で考える」と「社交」との関係について
—折衷主義哲学の考察をもとに—
田口 康大（東京大学大学院・院生）
- 9:55 | カントの「教育論」における「道德化」の意味とその射程
—「性格の確立」における「理性の開化」に注目して—
大森 一三（法政大学大学院・院生）
- 10:20 | カントにおける「道徳的心構え」と「理性信仰」
土屋 創（東京大学大学院・院生）
- 10:45 | シュタイナー思想における人智学の位置づけ
—倫理的個人のための「新しい神話」として—
河野 桃子（東京大学大学院・院生）
- 11:10 | ロムバッハの「共同創造性」を探究する
—いれこみという視座の構築に向けて—
古市 直樹（東京大学大学院・院生）
- 11:35 | 全体討議（～12:00）

第2日

9月17日(月)

第3部会

3階 第一会議室-B

司会：生澤 繁樹（上越教育大学）・西平 直（京都大学）

- 9：30 ウィリアム・ジェイムズの教育論とその心理学的前提
岸本 智典（慶應義塾大学大学院・院生）
- 9：55 G.H.ミードの社会的自我論における another 'me'の意義
岡村 健太（早稲田大学大学院・院生）
- 10：20 ブルーナーの「構成主義」の検討
—「始原的実在」の否定をめぐる—
嶋口 裕基（早稲田大学）
- 10：45 横軸に志向する超越とアイデンティティとの関連性
—E.H.エリクソンの理論に基づいて—
戸來 知子（名古屋大学大学院・院生）
- 11：10 自己実現の思想
—マスローを中心に—
山上 裕子（郡山女子大学短期大学部）
- 11：35 全体討議（～12：00）

第4部会

3階 第一会議室-A

司会：岡田 敬司（京都大学）・田中 昌弥（都留文科大学）

- 9：30 中間集団としての「科学者の共和国」についての考察
—M. ポランニーの自由論と秩序論を中心に—
宮地 和樹（東京大学大学院・院生）
- 9：55 規範性、理由の空間、第二の自然
三澤 紘一郎（東京福祉大学）
- 10：20 不登校経験者が自らの体験を記述することの意味
—サルトル『文学とは何か』を手がかりに—
満江 亮（山口大学大学院・院生）
- 10：45 身体化された行為者（embodied agent）としての学び手
—メルロ=ポンティの「身体」概念を手がかりとした学びの構造の探求—
奥井 遼（京都大学こころの未来研究センター）
- 11：10 全体討議（～11：35）

第2日

9月17日(月)

12:00~13:00 昼食・休憩
課題研究打ち合わせ 1階 来賓室

13:00~15:45 課題研究(学会理事会企画) 1・2階 井深大記念ホール

国家と教育

—これまでの教育哲学、これからの教育学(2)—

報告者： 松下 良平(金沢大学)
小玉 重夫(東京大学)
山名 淳(京都大学)
司会： 森川 直(神戸親和女子大学)
松浦 良充(慶応義塾大学)

16:00~18:00 ラウンドテーブル

1 教育学史の再検討(Ⅳ) 3階 第二会議室
—「原子力時代」のはじまりと戦後教育学—
企画者：小笠原 道雄(広島大学・名誉) 森田 尚人(中央大学)
田中 每実(武庫川女子大学) 矢野 智司(京都大学)

2 子どもと哲学対話を 3階 第一会議室-B
—初等中等教育における対話型哲学教育の実践とその意義—
企画者：河野 哲也(立教大学)

3 「教育としての哲学」の条件 3階 第一会議室-A
—ポール・スタンディッシュ『自己を超えて』をめぐって—
企画者：斉藤 直子(京都大学) 渡邊 福太郎(上武大学)

【第1日目】 13:00～16:30

1・2階 井深大記念ホール

規範と教育

提 案 者： 森田 洋司（大阪市立大学・名誉）
谷田 増幸（兵庫教育大学）
石堂 常世（早稲田大学）

指定討論者： 林 泰成（上越教育大学）

司 会： 高橋 勝（帝京大学）
藤井 千春（早稲田大学）

この10年以来、学校に関してはいうまでもなく、行政機関、都道府県、自治体の審議、答申、報告書、取り組みを追うならば、子どもたちの非行防止と規範意識の醸成をめぐる社会的関心の大きさと深刻さは明らかである。とくに教育基本法の改正以降、子どもの道徳性や規範意識をめぐる論議と方策は一段と前面に出てきた。ところで、そうした動向の割には、規範や規範意識に関する理論的な研究は意外に少ない。本研究討議においては、補導・検挙の対象となる少年非行のみならず、公共性を逸脱した行為、および多くの学校で教員が日々苦慮している問題行動をも視野に入れて考察することにしたい。その際、考察の起点を「時代性」におくことにする。すなわち、今日の時代と規範意識（あるいは道徳性）という角度から、人々の存在様態や傾向性に言及しつつ、その上で子どもたちの規範意識や道徳性の問題に迫ってみる。報告者は、思想的・理論的にそれぞれ独自のアプローチを用いながら、現代社会特有のモラル破綻を押さえ、その上で、現代に付与された倫理的苦悩、戸惑いともいえるべき実態を踏まえながら、学校教育のあり方と子どもたちの健全化の方策に目を転じることになる。公共性の再編ともいえるべき時代的課題に敢えて立ち向かわなければならない学校教育が、子どもたちの規範意識の醸成といった要請にいかなる論拠によって応え、かつ支えていったらよいのか、本研究討議では結論は出ないまでも、「道徳教育」、「生徒指導」、あるいは「学級・学校経営」等の課題に具体的に触れながら、理論的考察を深めていきたい。

【第2日目】13:00~15:45

1・2階 井深大記念ホール

国家と教育

—これまでの教育哲学、これからの教育学(2)—

報告者： 松下 良平 (金沢大学)
小玉 重夫 (東京大学)
山名 淳 (京都大学)

司 会： 森川 直 (神戸親和女子大学)
松浦 良充 (慶応義塾大学)

今期の学会理事会は、任期3年間(第54~56回大会)の大会課題研究を、「これまでの教育哲学、これからの教育学」という共通テーマのもとで連続企画することになった。その第1弾として昨年の第54回大会では、教育哲学および教育学の基盤的課題である教育概念の問い直し、特にその「問い方」に焦点をあてた。そこではいずれの論者も、教育概念について原理・理論的なアプローチを試みる際に歴史的考察を媒介にしていた。

今回は視点を反転させよう。すなわち教育という事象を歴史的な場において論じることから、教育概念の問い直しを試みるのである。そのためのテーマとして設定したのは、教育概念が歴史的にたちあがり、現代的に展開する磁場としての「国家と教育」である。近代教育は自由で自律的な主体の形成をめざしたが、それは道徳的秩序としての国家の構想のなかに織り込まれていた。またそれは教育学という学問が、政治的市民・国民の形成・教育を政治的中立性のもとで達成するという難題を背負うことも意味していた。「国家と教育」というフィールドにおいて、各論者によって独自に設定された三つの視線を交錯させながら、あらためて「教育」を浮き彫りにしてゆきたい。そしてそこから、これからの教育学の組み直しの作業に接続するような議論が展開されることを期待したい。

教育学史の再検討 (Ⅳ)

—「原子力時代」のはじまりと戦後教育学—

企画者：小笠原 道雄（広島大学・名誉） 森田 尚人（中央大学）
田中 每実（武庫川女子大学） 矢野 智司（京都大学）

東日本大震災は自然の猛威の前にたたずむ人間の姿をさらけ出したが、同時に生起した福島第一原発事故は人類の直面する諸問題を科学・技術の限りない進歩によって克服しようとしてきた近代日本社会と思想に対する根源的な問い直しを迫るものとなった。教育哲学会が稲富栄次郎によって、長田新の率いる日本教育学会に対抗して創設された事情は、戦後教育学が被爆地広島を起点にしていることを象徴的に示している。『原爆の子』の編者としても知られる長田は、平和教育の理念を掲げる戦後教育学を思想的に方向づける上で決定的な役割を果たした。だが、「原子力時代」を眼前にした長田の教育学論は、人類社会の直面する危機の本質を捉えるうえで大きな問題性を孕んでいたのではないか。小笠原による主報告は、長田の「原子力時代」の自己理解と行動を、Th. リットと対比させて論じる。それを手がかりに、科学と倫理という視座から、戦後教育学の「自己理解」を試みたい。

子どもと哲学対話を

—初等中等教育における対話型哲学教育の実践とその意義—

企画者：河野 哲也（立教大学） 提案者：森田 伸子（日本女子大学）
提案者：土屋 陽介（茨城大学）
提案者：村瀬 智之（千葉大学大学院・院生）

リップマンを嚆矢とする子どものための対話型の哲学教育は、ユネスコ推奨のもと、近年、世界各地で精力的に取り組まれている。日本においても、とくに震災以降、優

れた公共的意思決定を行うためには市民による議論が不可欠であり、そのための素養が教育されるべきことが理解された。これを背景に、哲学対話に対する関心が高まり、子ども哲学の本格的な導入が試みられるようになった。本ラウンドテーブルでは、子どもとともに学び合う哲学とはどのような教育であり、どのような意義を社会と教育界にもたらすのか、小中学校での実践を踏まえながら理論的に検討する。森田は、「哲学教育」とは何かという原理的な問いを立てながら、哲学をはじめめる年齢の問題についての議論を提起する。土屋は、日本の小中学校での実践を、対話を通じた思考の哲学的深まりの観点から紹介する。村瀬は、哲学対話教育が涵養するとされる創造性の問題を知のあり方の観点から検討する。

No.3

ラウンドテーブル3

【第2日目】16:00~18:00

3階 第一会議室-A

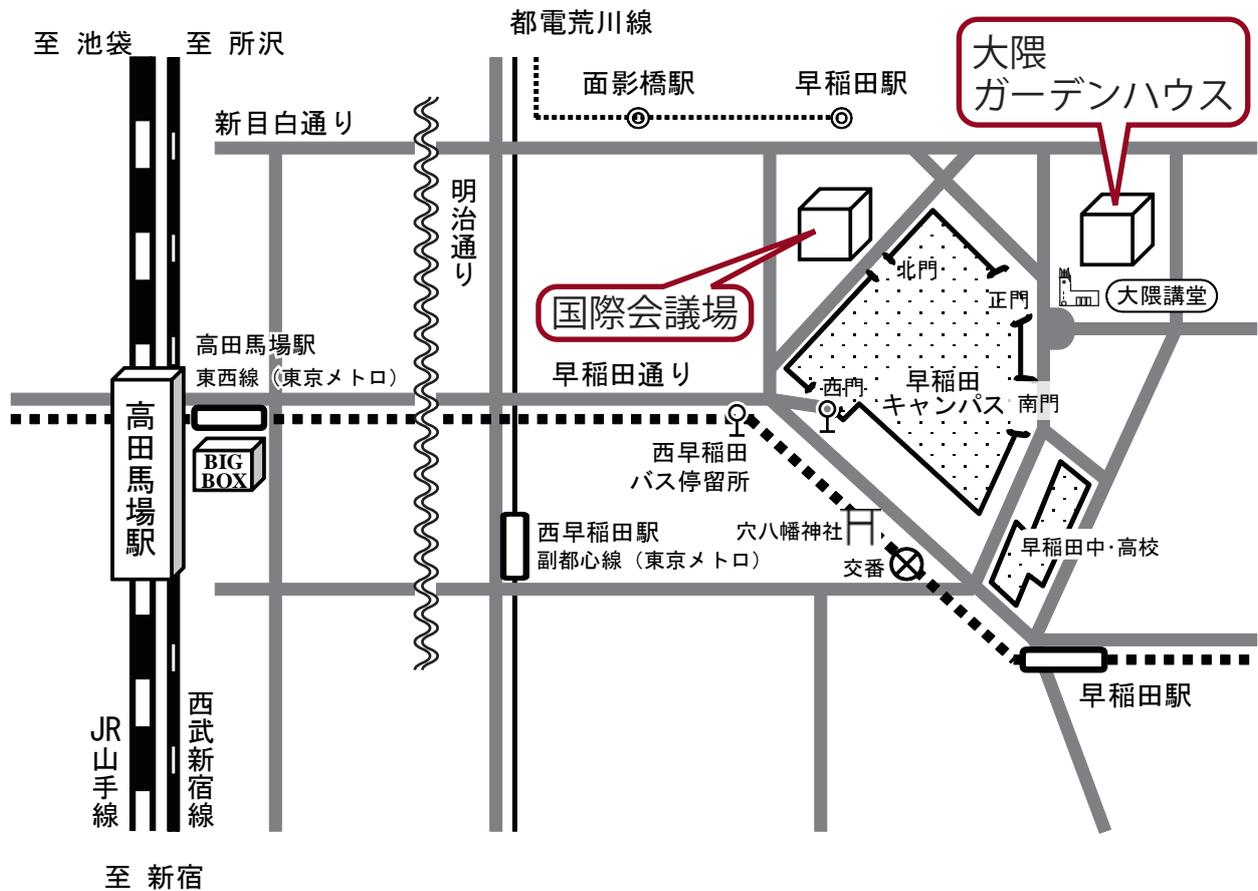
「教育としての哲学」の条件

—ポール・スタンディッシュ『自己を超えて』をめぐって—

企画者：斉藤 直子（京都大学） 提案者：今井 康雄（東京大学）
企画者：渡邊 福太郎（上武大学） 提案者：丸山 恭司（広島大学）
提案者：小野 文生（同志社大学・非常勤講師）
提案者：朱 よう（京都大学大学院・院生）

本企画では、分析哲学と大陸哲学の創造的緊張関係が開く「教育としての哲学」の意義を明らかにすることを目指して、ポール・スタンディッシュ著『自己を超えて：ウィトゲンシュタイン、ハイデガー、レヴィナスと言語の限界』（斉藤直子訳）（法政大学出版局，2012年）を議論の対象として取り上げる。同書は、ウィトゲンシュタインとハイデガーとの接点たる「言語の限界」の思想から、レヴィナスの他者の思想へ、そしてカベル、エマソンのアメリカ哲学における自己超越の思想へと哲学的対話を展開する中で、リベラリズムにおける「自律」や「主体」の意味を再考し、「自己を超えて」他者への受容性と慎み深さの生の地平を切り開く。それは、閉ざされたエコノミーから開かれたエコノミーへと思考と実践の転換を促し、「他者を志向する／別の仕方での教育」の可能性を拓く実践哲学の著である。本企画では、同書の主旨に応答しつつ「教育としての哲学」の条件を問うていきたい。

早稲田大学への交通アクセス



早稲田大学国際会議場

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-20-14

[TEL] 03-5286-1755

<当日緊急連絡先>

大会準備委員会事務局長 藤井千春

携帯 090-4412-1528

<電車>

JR 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分

西武 新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分

地下鉄東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 10 分

副都心線 西早稲田駅から徒歩 17 分

<都電 荒川線>

JR 大塚駅より都電「早稲田」行き

終点下車徒歩 3 分

<バス>

JR 高田馬場駅東口より

学バス西早稲田下車徒歩 5 分

<空港からのアクセス例>

成田空港→成田エクスプレス→新宿→JR 山手線 高田馬場→東京メトロ 東西線 早稲田

成田空港→リムジンバス→新宿駅 (西口)→JR 山手線 高田馬場→東京メトロ 東西線 早稲田

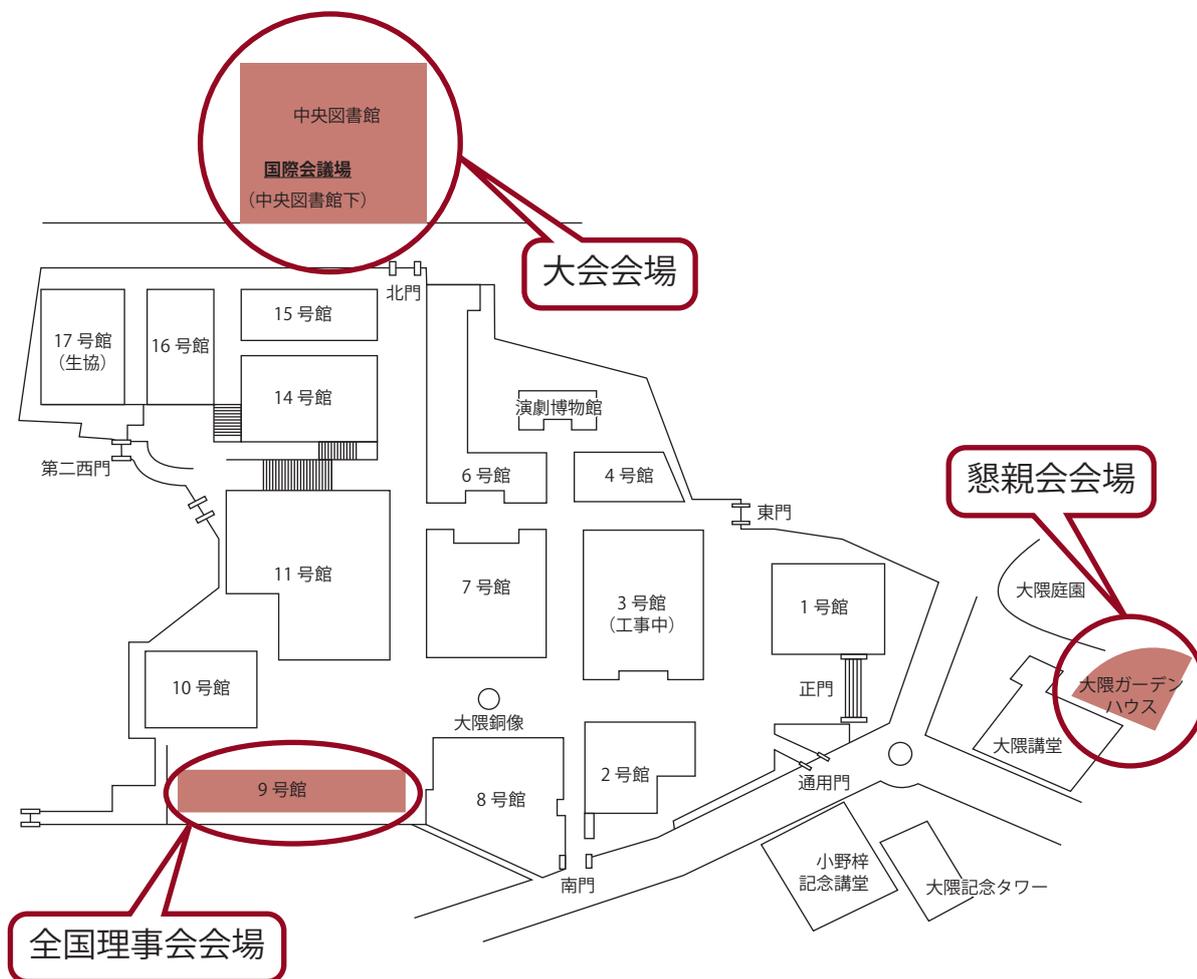
成田空港→京成スカイライナー 上野→東京メトロ 銀座線 日本橋→東京メトロ 東西線 早稲田

羽田空港→京浜急行 日本橋→東京メトロ 東西線 早稲田

羽田空港→東京モノレール 浜松町→JR 山手線 高田馬場→東京メトロ 東西線 早稲田

早稲田大学 大会会場

早稲田大学キャンパスマップ



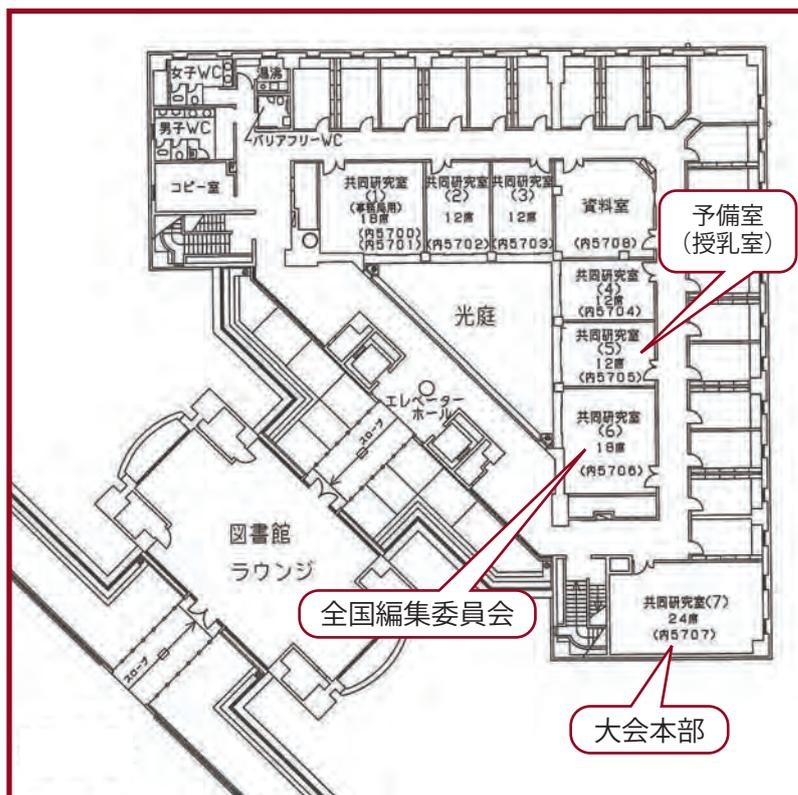
- | | |
|--------------------------|----------|
| 受付：国際会議場 1 階 | ロビー |
| クローク：国際会議場 1 階 | クローク |
| 一般研究発表：国際会議場 3 階 | 第一～第三会議室 |
| 研究討議・課題研究・総会：国際会議場 1・2 階 | 井深大記念ホール |
| ラウンドテーブル：国際会議場 3 階 | 会議室 |
| 懇親会：大隈ガーデンハウス | |
| 全国編集委員会：国際会議場 4 階 | 共同研究室 6 |
| 研究討議・課題研究打ち合わせ：国際会議場 1 階 | 来賓室 |
| 会員控室：国際会議場 3 階 | 市島記念会議室 |
| 予備室（授乳室）：国際会議場 4 階 | 共同研究室 5 |
| 大会本部：国際会議場 4 階 | 共同研究室 7 |
| 全国理事会：9 号館 3 階 | 301 室 |

早稲田大学大会会場

国際会議場1階 案内図

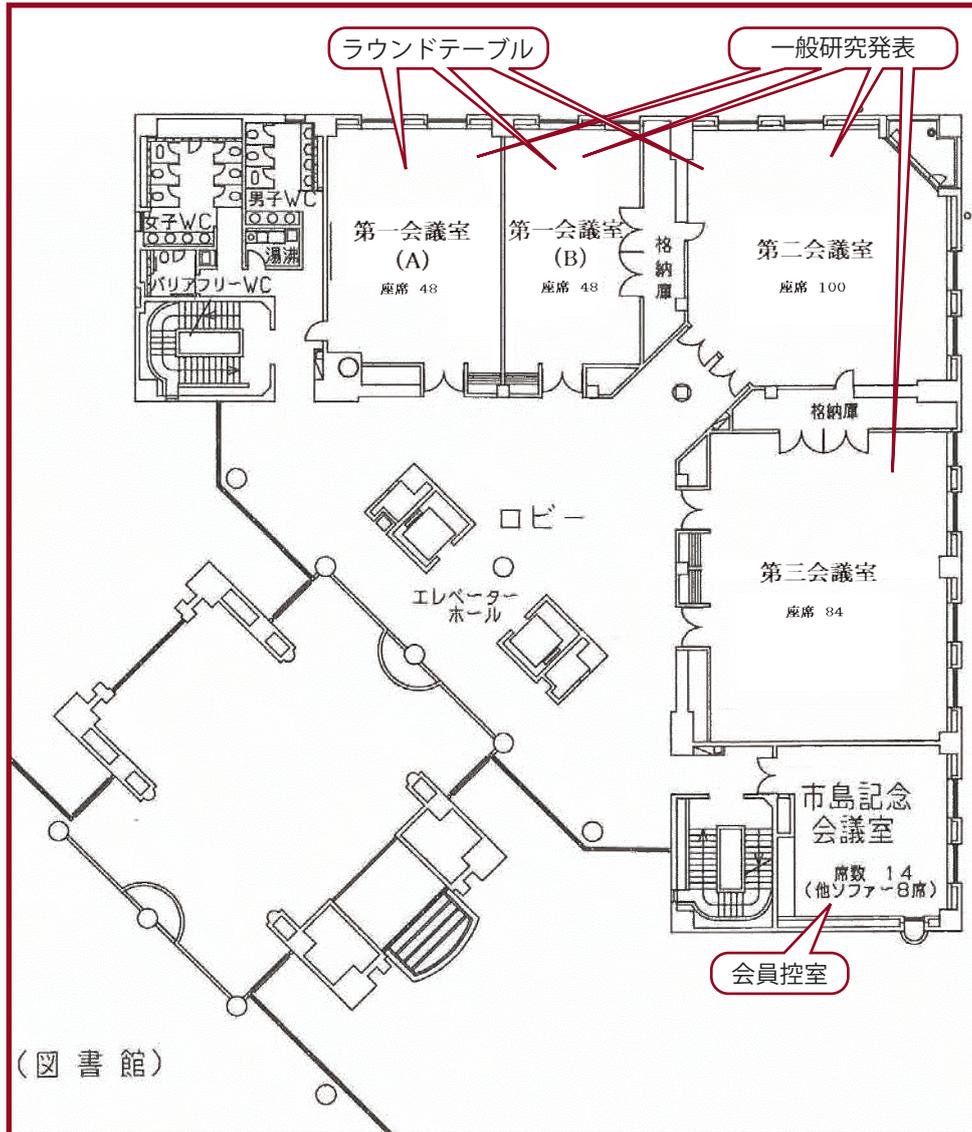


国際会議場4階 案内図



早稲田大学 大会会場

国際会議場3階 案内図



教育哲学会 第 55 回大会

教育哲学会第 55 回大会準備委員会

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学教育・総合科学学術院 藤井千春研究室

E-mail : chiharu-f@waseda.jp